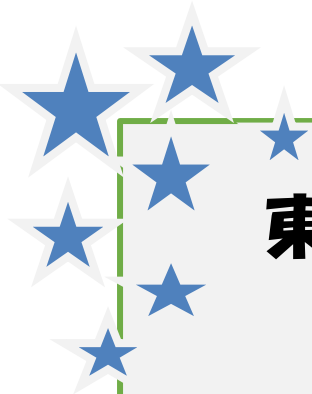




東久留米市地域自立支援協議会 ニュースレター 第5号

発行日 平成29年3月29日

東久留米市では、心身に障害を持つ方への施策について、市民に参加して頂き考えていく場として、平成24年10月に「東久留米市地域自立支援協議会」を設けました。このニュースレターは、協議会で話し合われた内容について、広く市民にお知らせする目的で発行するものです。第5号では、今年度1年間かけて行われた第4期障害福祉計画の評価と、各委員の1年間の感想や、今後の地域自立支援協議会に臨むこと等についてまとめました。

地域自立支援協議会

障害のある方へ、介護や医療サービスをはじめ様々な公的サービスを行うために定めた「障害者総合支援法」と呼ばれる法律があります。その中に、市町村は「協議会」を設けて、その地域における障害者への支援体制についての課題を整理し、支援を行う側の協力関係を強め、地域の実情にあったサービスが行えるように協議をする、ということが盛り込まれています。また、その協議会には、実際に障害のある方とそのご家族にもなるべく参加していただくようにと書かれています。

そのことを受けて、市では「地域自立支援協議会」についての決まりを作りました。そして、協議会では、(1) 障害のある方から相談を受けた時に適切に対応するためにはどうしたら良いか、(2) サービスを行う側の連携を高めるためにどうしたら良いか、(3) この地域で不足しているサービスにはどのようなものがあるか、(4) 様々なサービスの量的な目標を定める「障害福祉計画」をどのように立てるか、などについて話し合っていくことにしました。協議会委員は、16名(平成29年3月1日現在)で運営しております。



東久留米市障害者計画・第4期障害福祉計画の評価

計画の概要

計画の基本理念

「障害のある人が地域で安心して暮らすことができ、自らの意志で参加できるまち」を基本理念とし、障害のある人が、必要な支援を受けながら自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加し、自らの能力を最大限発揮し自己実現できる地域社会を目指します。また、障害のある人の活動を制限し社会への参加を制約している障壁を取り除くため、障害のある人の自立と社会参加の支援を総合的かつ計画的に実施していきます。

計画の性格

この計画は、本市の障害福祉に関する様々な施策について、長期的視点から総合的かつ計画的に推進することを目的として、障害者基本法（昭和45年法律第84号）第11条第3項に定める市町村障害者計画と障害者総合支援法（平成17年法律第123号）第88条第1項に定める市町村障害者福祉計画を一体的に策定するものです。また、第4次長期総合計画を上位計画とし、他の関連する計画や国の「障害者基本計画」及び東京都の「東京都障害者計画・第4期東京都障害福祉計画」と整合を図っています。

事業量の見込値と実績値の比較(平成27年度実績)

今年度の自立支援協議会では、第5期計画策定に向けて、第4期計画期間中のサービス利用実績の評価を行いました。主な事業の事業量の見込値や利用実績、また、各委員の方から出た意見や評価をまとめました。



○訪問系サービス

		平成２７年度（平成２８年３月実績）	
		見込値	実績値
居宅介護	実利用者数	９１	７９
	利用時間数	１，０１５	８５２
重度訪問介護	実利用者数	２３	２１
	利用時間数	７，９００	７，２３３
同行援護	実利用者数	２４	２１
	利用時間数	３５８	４０２
行動援護	実利用者数	２０	２２
	利用時間数	７８０	６７４

【意見】

- ヘルパー不足で利用者の依頼を受けられない状況である。
- 今後医療ケアが必要な人に対する対応を検討する必要がある。
- 全体として支給量が少ない。

【評価】

- 必要とされるヘルパーの人数と市内に在籍しているヘルパーの人数とのギャップがどれくらいあるか調査が必要。

○日中活動系サービス

		平成２７年度（平成２８年３月実績）	
		見込値	実績値
生活介護	実利用者数	２３２	２３０
	利用時間数	４，５５４	４，８０４
自立訓練 （機能訓練）	実利用者数	１	１
	利用時間数	１６	１２
自立訓練 （生活訓練）	実利用者数	１１	１２
	利用時間数	１７６	２０７
宿泊型訓練	実利用者数	１	２
	利用時間数	３０	６２
就労移行支援	実利用者数	３３	３０
	利用時間数	５６６	５１４
就労継続支援 （Ａ型）	実利用者数	１６	１５
	利用時間数	２９４	３２７

就労継続支援 (B型)	実利用者数	275	291
	利用時間数	4,400	5,128
療養介護	実利用者数	7	8
短期入所	実利用者数	31	48
	利用時間数	255	318

【意見】

○在学中の児童の今後も踏まえた数値設定が必要。生活介護は不足してくる。

○事業所の定員を増やすのは難しい状況がある。

【評価】

○卒後の進路の問題、生活介護の不足など、自立支援協議会や施設代表者会などで検討していく。

○居住系サービス

	平成27年度（平成28年3月実績）	
	見込値	実績値
共同生活援助	125	125
施設入所支援	95	92

【意見】

○グループホーム間の情報共有が必要。

○親亡き後の施策でなく、本人の自立の観点を入れるべき。

○グループホームのニーズはまだまだ多い。

【評価】

○短い期間での数値設定と同時に長期的な視点で計画をたてる必要がある。

○児童系サービス

		平成27年度（平成28年3月実績）	
		見込値	実績値
児童発達支援	実利用者数	47	49
	利用時間数	699	605
放課後等 デイサービス	実利用者数	100	122
	利用時間数	965	1,434

【意見】

○放課後等デイサービスについては、児童の健全育成という目的の他、親の就労保障という面もある。また、サービス利用を前提とした利用計画という状況もあり、課題がある。

【評価】

○自立支援協議会で情報を出し合い、今後も協議していく。

○特定相談支援と地域相談支援

	平成27年度（月平均）	
	見込値	実績値
計画相談支援	64	87
障害児相談支援	13	15
地域移行支援	1	0
地域定着支援	1	0

【評価】

○計画相談については比較的順調に動いている。

【改善】

○計画の内容の充実や相談支援専門員の確保に努めていく。

○自立支援医療

	平成27年度	
	見込値	実績値
更生医療	80	75
育成医療	10	14
精神通院医療	1,899	1,953

【意見】

○事業所でも鬱や発達障害の方が増えているという実感はある。

【評価】

○利用希望者に対し、適切に提供がされている。

○補装具

	平成27年度	
	見込値	実績値
利用件数	275	239

【評価】

○ほぼ見込み通り、希望者に対し給付されている。

【改善】

○今後も利用希望者に対し、適切に案内・受付をしていく。

○地域生活支援事業

		平成27年度	
		見込値	実績値
委託相談支援実施個所数		2	2
成年後見制度利用件数		3	0
移動支援事業	実施個所数	33	47
	実利用者数	270	245
	利用時間数(1月)	2,450	2,640
介護・訓練支援用具(件数)		12	19
自立生活支援用具(件数)		20	15
在宅療養等支援用具(件数)		10	14
情報・意思疎通支援用具(件数)		30	14
排泄管理支援用具(件数)		2,050	2,002
住宅改修(件数)		4	10
日中一時支援	実施個所数	6	6
	実利用者数	210	206
手話通訳者派遣(件数)		200	349
要約筆記者派遣(件数)		52	37
手話講習会修了者数		55	65
地域活動支援 センターⅠ型	実施個所数	1	1
	実利用者数	60	68
地域活動支援 センターⅡ型	実施個所数	1	1
	実利用者数	35	56

○移動支援事業

【評価】

○量的な面だけでなく、数的な面でも対応できない状況がある。

【改善】

○次期計画作成の際、事業所に対してヒアリングを行い、ヘルパー不足の状況を確認し、解決策の検討を行う。

○日中一時支援事業、手話関連事業

【評価】

○手話講習会のあり方について、今後検討していく必要がある。

○日中一時支援について、他市の状況をふまえ、支援の方法について検討が必要。

委員の方の感想や今後自立支援協議会に望むこと

今期の協議会会長を務めさせていただくことになりました。障害者差別解消法の施行から1年が経とうとしていますが、障がいのある人の権利が当たり前に保障されるために、すべきことがたくさんあることを実感しています。いろいろな意見や考えを出し合いながら、障がいのある方々の暮らしがよりよくなるよう、市民のみなさんと一緒に着実に確実に進めていきたいと思っています。

東久留米市地域自立支援協議会 会長 澤 隆史

より多くの人に地域自立支援協議会の存在を知っていただきたいと思います。そのためには、名称の変更を考えていく必要があると思います。今の名称では、何を目的としているのかがはっきりしません。例えば「障害福祉総合相談センター」といった具体的な役割が明確になるような名称にして、関係者だけでなく市民の方々にも周知できる仕組みを考えるべきではないかと思っています。

磯部 光孝

平成24年10月設置より当事者団体代表の一人として参加させていただいております。障がいのある人の法整備が進み、今年度は「障害者差別解消法」が施行されました。協議会の中の「住みよいまちづくり部会」において市民のみなさまに知っていただくための協議をし、市報折り込みチラシや市報コラム掲載など実現することはできましたが、事の大小にかかわらず日々起こることとのギャップに当事者団体としての役割を振り返るとともに、再認識する必要を強く感じた一年でした。

長田 菜穂美

行政、民間、学校等の方々が、時間、技能、労働力と向き合いながら、一人の人間を社会に送り出す為に、日々工夫され挑戦されている姿がよく理解できました。法律が整備され、施設が増加しても、必ずもれてしまう方がいらっしゃるこの現実を知りました。実務に携わる方々以外にも、家族が大切であり、市民の中に理解の輪が広がる必要があると思いました。いずれにしても、国連の提唱する「誰一人取り残されない」という目標への強い決意が今こそ必要だと思います。

松本 健彦



- ✚ 障害者と暮らす家族は介護年数が長くなるほど介護者も高齢になり負担が重い。介護者は本人の行く末を案じ誰にも相談できず無理心中、このような結末は後をたたない。親亡き後、生涯にわたり人それぞれに応じた差別のない暮らしを約束される支援と満足のできる社会制度を望みます。

及川 静子



- ✚ 今年度の「住みよいまちづくり部会」では、障害者差別解消法が4月からスタートしたことにより、そのポスターづくりに私もちょっと参加させていただきました。また「防災」について、市の職員によるお話が聞けたことのこの2つです。いつも思う事なのですが、もし災害が起きたら聴覚障害者はどう避難したらよいのだろうかということ。音声による情報は私たち耳の聞こえない者にとっては無きに等しく、視覚からの情報を得るためには、行政の理解が必要不可欠です。今後も「住みよいまちづくり部会」で「防災」についての話し合いを深めていき、近い将来やってくるであろう災害に万全を期して、安心して生活できるようにするのも「住みよいまち」の一つであると思います。来年度では今以上に「防災」についての話し合いが進められるようにと願っています。

平山 征子



- ✚ むつかしかったのでわからなかったです。かいぎの中でつかうしりょうにふりがなをいれてもらいたい。はなされるいけんの中ではわかることもある。じぶんはねんきんとかせいかつほごのこととか、しせつのことならわかりやすい。

はなしはわからないことです。ねんきんやせいかつほごのはなしをいれてもらえたらいいとおもいます。みんながくらしやすくなるはなしをしてください。

こうせいしょうとのはなしでいそがしい。

小田島 栄一



- ✚ 自立支援協議会委員として参加させていただき、年数回の会議で市の障害福祉計画の評価・課題の整理に関わるということに、年々責任の重さを痛感しています。知的障害等の比較的見える障害に偏ることなく広い視点で考えていくことが必要だと思いますし、水面下に埋もれているいろいろな障害の方々の声なきニーズを吸い上げ次期の福祉計画に反映させていけるように、市民・地域の方々のご意見を伺う機会が多くあればと感じました。

水谷 貞子





- ✚ 今年度、初めて自立支援協議会に出席させて頂きました。お陰様で、地域の状況などを知ることができました。また、部会等の中で活発に意見交換している委員の皆様の熱い思いに触れることができました。めくるくまーも、一人でも多くの皆さんに利用していただき、利用者の皆さんが自分らしく地域で暮らしていけますよう、業務の内容や質の向上を目指し努力してまいりたいと、改めて感じさせられました。

金森 信行



- ✚ 「地域における障害者等への支援体制に関する課題」(総合支援法第89条の三)とは、障害のためになかなか光が見えない中を歩いておられる当事者やご家族、支援に苦勞しておられる事業所、それらの方々が持つておられる支援課題のことであり、その解決に役立つ自立支援協議会になればと思いつつ参加しています。現実的には、前進はしているものの、困難は多いと感じています。少しずつでも努力して行きたいです。

高原 聡



- ✚ 自立支援協議会での第4期障害福祉計画の評価を通して、障害を持っていても地域で暮らすために必要なサービスの内容、量を確認し、充実を図るための課題の掘り起しができたのではないかと思います。また、5年目を迎えた相談支援部会は、地域課題解決の方向の話し合いができるのではと、期待がもてる1年間だったと思います。任期残り1年ですが、第5期障害福祉計画策定にかかわり、暮らしやすい東久留米市になればと願っています。

有馬 優子



- ✚ 自立支援協議会委員として就労支援の立場で参加させて頂きました。地域で暮らす市民の方々は、障害の状況、生活の状況等は様々でニーズも個々に異なります。就労などの面で必要としている支援についての要望は沢山あると思いますが、実際に利用できるサービスは限られています。今後、様々なニーズに対し自立支援協議会として、どのように対応するべきであるのか、今まで以上に進んだ取組を行い、より支援の幅が広がっていくと良いと感じています。

藤岡 茂樹



- ✚ 自立支援協議会委員として相談支援部会に参加させていただきました。学齢段階の障害を持たれた方々と関わっている立場として、会議では、この先の市内障害者の方々への様々な支援の在り方を、現実的な予測人数に基づいて話をしてきました。どんな人にも豊かな東久留米市であるように、今後とも取り組んでいければと考えています。

吉澤 洋人





- 民生委員として今期途中から協議会に委員として参加させていただきました。障害と一言で言っても、色々な方たちがいらっしゃいます。障害者の方、そしてそれを支える家族の方、それらの方たちにどのようにしたら少しでも寄り添っていけるのか、自分は何ができるのか考えながら、これから協議会委員の皆様に教えていただきながら勉強していきたいと思います。

後藤 千賀子



- 昨年は「障害者差別解消法」も施行され、行政だけでなく地域の中でも障がい者への理解がますます求められています。本来なら一人ひとりが「当たり前」の行動をすれば法律で定めるまでもないことでしょう。今後も委員としてその「当たり前」を形に出来るよう努めたいと思います。

大櫛 昌史



ひ が し く る め し ち い き じ り つ し え ん き ょ う ぎ かい い い ん め い ぼ へ い せ い ね ん ど
東久留米市地域自立支援協議会 委員名簿（平成28年度）

しゅ 種	べつ 別	にんずう 人数	し ん 氏 名	せんもんぶかい 専門部会	び 備 考
しょうがいふく し かん がくしきけいけんしゃ 障害福祉に関する学識経験者		1	かい ちょう さわ たかし 会 長 澤 隆史		
しょうがいたう じしゃまた しょうがいしゃだんたい かぞくかい だいひょうしゃ 障害当事者又は障害者団体・家族会の代表者	5		ながた なほみ 長田 菜穂美	す 住みよいまちづくり	ふくぶかいちょう 副部会長
			まつもと たけひこ 松本 健彦	そうだんしえん 相談支援	
			おいかわ しずこ 及川 静子	す 住みよいまちづくり	
			ひらやま せいこ 平山 征子	す 住みよいまちづくり	
			おだじま えいいち 小田島 栄一	そうだんしえん 相談支援	
そうだんしえんじぎょうしゃ 相談支援事業者	2		みずたに さだこ 水谷 貞子	す 住みよいまちづくり	
			かなもり のぶゆき 金森 信行	そうだんしえん 相談支援	
しょうがいふく し じぎょうしゃ 障害福祉サービス事業者	3		ふくかいちょう いそべ みつたか 副会長 磯部 光孝	す 住みよいまちづくり	ぶかいちょう 部会長
			たかはら さとし 高原 聡	そうだんしえん 相談支援	ぶかいちょう 部会長
			ありま ゆうこ 有馬 優子	そうだんしえん 相談支援	ふくぶかいちょう 副部会長
ほけんいりようかんけいしゃ 保健医療関係者	1		やまぐち くみこ 山口 久美子	す 住みよいまちづくり	
きょういけんけいしゃ 教育関係者	1		よしざわ ひろと 吉澤 洋人	そうだんしえん 相談支援	
しゅうろうしえんかんけいしゃ 就労支援関係者	1		ふじおか しげき 藤岡 茂樹	そうだんしえん 相談支援	
みんせいじどういん だいひょうしゃ 民生児童委員の代表者	1		ごとう ちかこ 後藤 千賀子	す 住みよいまちづくり	
しゃかいふく しきぎょうぎかい だいひょうしゃ 社会福祉協議会の代表者	1		おおくし まさふみ 大櫛 昌史	そうだんしえん 相談支援	
ごう 合	けい 計	16			

※ 平成29年3月現在。委員任期は平成28年4月1日～平成30年3月31日

■自立支援協議会の議事概要は市のホームページに掲載されています。

<http://www.city.higashikurume.lg.jp/>

トップページ＞市政を身近に＞会議の結果＞障害福祉課＞東久留米市地域自立支援協議会

編集・発行 東久留米市地域自立支援協議会事務局

Email:shogaifukushi@city.higashikurume.lg.jp